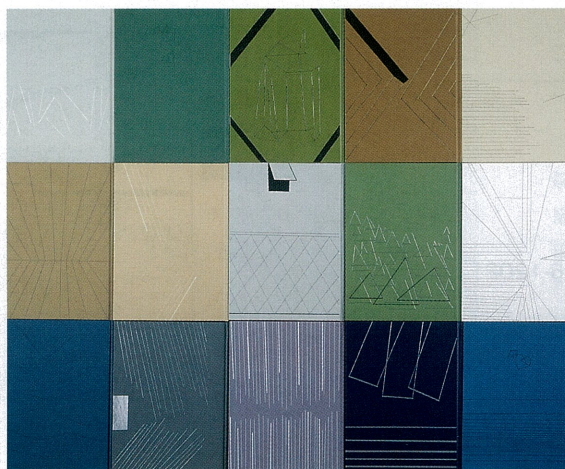


# 清川泰次

## 芸術とデザイン

12月3日<sup>土</sup> — 2006年3月26日<sup>日</sup>

芸術とは ものを創る自由さの中に 生れている  
(「芸術とは何か」美術出版社 1999年 P.56)



《住まいの文化誌》ミサワホーム 装丁:清川泰次



旧清川邸の客間 《ハウスアンドホーム》1982年2月号 撮影・山口 洋

清川泰次はその半世紀に及ぶ画業の中で、芸術とその応用としてのデザインとの間に常に自由闊達に行き来していました。

1958年には銀座松屋のウィンドウ・ディスプレイを担当し、「秋のアトリエ」と称して自身の作品を展示、公開制作も行ないました。翌年には三越本店で彼が意匠を考案した着物が制作されています。1960年代以降は書籍の装丁などの仕事を積極的にこなし、1962年には自身の絵画を、市33mもの緞帳のデザインとして国際劇場に提供しています。1982年には、「線の世界」のシリーズが応用されテーブルウェアとして全国発売されました。その他にも、ファブリック・デザインの考案、書籍「住まいの文化」シリーズなどの装丁、有田焼や益子焼の絵付、そして掛軸の制作など、多岐にわたる活動を精力的に行ない、その創作意欲は晩年まで全く衰えることを知りませんでした。

清川はこのように様々な分野へとその関心を押し広げていきました。その根底には、彼が芸術に対峙する際の基本的な精神であった、自らの作品を構成する線、面そして色彩は、それぞれがすでに美しくあるべきだという志向が常にあります。現実にあるものをそのままに写し描くのではなく、抽象化するのでもなく、抽象それ自体が美しい世界を目指したのです。そのような彼の理念を反映した芸術が、形を変えて生活の中に溶け込んでいく術として、様々なデザインや製品に応用されていったのは、非常に喜ばしく、意義深いことであつたに違いありません。

今回の展覧会は、このように旺盛な画業の傍らで同様に真摯に行われてきた清川の様々なデザインに関する仕事を回顧します。また、同時代に制作された油彩画も併せて並列することにより、彼の幅広い創作を様々な角度から考察し、そこに一貫した彼独自の美術とデザインに対する意識を検証しようとするものです。



# ■宮本三郎記念美術館

平成17年度 第3期展  
 生誕100年記念 宮本三郎の描いた女性像 豊麗なる絵画世界  
 12月3日(土) - 2006年3月26日(日)

●お問い合わせ  
 〒158-0083 世田谷区奥沢5-38-13 TEL:03-5483-3836  
<http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>

●最寄交通機関のご案内  
 東急目黒線(奥沢)駅 徒歩8分  
 東急大井町線(九品仏)駅 徒歩8分  
 東急大井町線・東横線(自由が丘)駅 徒歩7分

世田谷美術館分館  
**宮本三郎**  
 記念美術館



# ■向井潤吉アトリエ館

平成17年度 第3期展  
 向井潤吉 旅路 作家の足跡を求めて  
 12月3日(土) - 2006年3月26日(日)

●お問い合わせ  
 〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL:03-5450-9581  
<http://www.mukajunkichi-annex.jp/>

●最寄交通機関のご案内  
 東急田園都市線(駒沢大学)駅 西口 徒歩10分 / 東急世田谷線(松陰神社前)駅 徒歩17分  
 東急バス(渋05)渋谷~弦巻営業所(駒沢中学校) 徒歩3分 / 東急バス(等11)祖師谷折返所~等々力(駒沢三丁目) 徒歩3分  
 東急バス(渋11)渋谷~田園調布(駒沢大学駅前) 徒歩10分 / 東急バス(渋12)渋谷~二子玉川(駒沢大学駅前) 徒歩10分

世田谷美術館分館  
**向井潤吉アトリエ館**



# ■清川泰次記念ギャラリー

平成17年度 第3期展  
 清川泰次 芸術とデザイン  
 12月3日(土) - 2006年3月26日(日)

●お問い合わせ  
 〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17 TEL:03-3416-1202  
<http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>

●最寄交通機関のご案内  
 小田急線(成城学園前)駅南口 徒歩3分

世田谷美術館分館  
**清川泰次**  
 記念ギャラリー

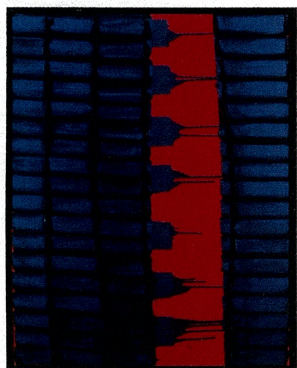


## 各館共通

- 開館時間 午前10時~午後6時(入館は午後5時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日(ただし2006年1月9日は開館、1月10日は休館)、年末・年始(12月29日~2006年1月3日)
- 観覧料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、中小生100円(80円)、65歳以上及び障害者の方100円(80円)、( )内は20名以上の団体料金、小・中学生は土・日・祝日無料

# 世田谷美術館

〒157-0075 世田谷区砧公園1-2 TEL:03-3415-6011(代) <http://www.setagayaartmuseum.or.jp>



▲「連続の溶解」1964-28)1964年

## 《企画展》

- 12月17日(土)~2006年2月12日(日) 堂本尚郎展—絵画探求60年の足跡とその未来1945-2005  
 1928年京都に生まれ、日本画家としてスタートした堂本尚郎は、1952年、渡欧を機に油彩画に転じます。以後、パリ、ニューヨークなどを舞台に活動を展開し、世界的な注目を集めました。1967年に帰国。翌年世田谷区深沢にアトリエを構え、今日なお、新たな絵画の在り方に、挑戦しつづけています。本展では、激動の昭和を駆け抜けてきた歴史的な前衛画家、堂本尚郎の足跡を、初期日本画から初公開の最新作までの約100点で辿ります。
- 2006年2月25日(土)~4月9日(日) 開館20周年記念 世田谷美術展2006  
 世田谷美術館が開館する以前より、世田谷区に住む多くの芸術家たちによって開催されていた世田谷美術展。今回も様々なジャンルで活躍されている区内在住作家の作品が一堂に会します。また、2006年3月に本館は開館20周年を迎えます。本展ではそれを記念し、数多い収蔵品のなかから、世田谷美術展にゆかりのある作家たちの作品も合わせて展示いたします。

## 《収蔵品展》

- 開催中~12月24日(土) 陽の名残  
 アンリ・ルソー、魯山人といった世田谷美術館を代表するお馴染みの作品が徐々に勢ぞろいします。また、当館初公開の作品も展示いたします。



▲世田谷美術館2004会場風景

開館時間：午前10時~午後6時(入館は午後5時30分まで) 休館日：毎週月曜日(ただし休日と重なった場合は翌日) 観覧料：収蔵品展は分館と同じ(企画展は内容により異なる)

[最寄交通機関のご案内] 東急田園都市線「用賀」駅徒歩17分、または美術館バス「美術館」徒歩3分 / 小田急線「成城学園前」駅から渋谷駅行バス「砧町」徒歩10分